

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第5回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 平成12年12月1日 (金) 14:00~17:20

2. 場所 日本原燃 (株) 大会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山 (主査), 藤原 (幹事), 上田, 大江, 坂下, 佐々木, 武部, 豊原, 本山, 馬原, 山本, 油井
(12名)

(代理出席委員) 石井 (菊込代理), 西 (吉田代理) (2名)

(欠席委員) 小川 (副主査), 出光 (2名)

(常時参加者) 増田 (1名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F2SC5-1 第4回 放射性廃棄物管理分科会議事録 (案)

F2SC5-2 標準委員会の活動状況

F2SC5-3 標準本体, 附属解説目次構成 (案) について

F2SC5-4 参考資料一覧

参考資料

F2SC5-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 16名の委員中12名の委員と2名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (11名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録の確認を行い, 承認された。 (F2SC5-1)

(3) 活動状況報告

事務局より標準委員会等の活動状況の報告があった。標準に関する意見の募集については, 原案をホームページに掲載し, 容易にアクセスできるようにすべきではないか等の意見があった。 (F2SC5-2)

(4) 調査・検討状況の審議

武部委員より報告書, 付録解説目次構成について, 標準作成手引きに従った修正案についての説明が行われた。

また, 担当委員より各項目の内容について説明があり以下の議論が行われた。 (F2SC5-3)

・ 標準の目次構成案について

標準の序文については, 標準委員会委員長, 専門部会部会長の序文となるため, 事務局が対応することとなる。

b-1. 国内における分配係数に関する現状について

- ・ 収着メカニズムの分類方法を再検討すること
- ・ 引用, 参考とする文献を記載する必要がある。

b-2. 分配係数をめぐる最近の国内外の動向について

- ・ 文献の引用を明確にすることが好ましい。
- ・ 分配係数の標準について, 各国の取り組み方などを例示してはどうか。

c-1. 分配係数の定義について

- ・ ここでは, 沈殿については対象範囲に含めることはしない。
- ・ b-1 からつながるように, 学会標準の位置づけなど記載すること。

c-2. 分配係数の定義と適用範囲について

- ・ c-1, 2は, 考え方の絞り込みが必要な部分であり, 各担当者間で再度検討を行ってほしい。
- ・ 適用範囲の部分は, 表などを使い, 分かりやすく記載すること。

d-1. 分配係数への影響因子の把握のための検討について

- ・ 表などを用いて全体が理解しやすいようにまとめてほしい。
- ・ d章については, 全体でまとめを行う必要がある。
- ・ d章は物で分けせず, 因子でまとめていきたい。
- ・ f章につなげられるように意識してまとめること。

e. 分配係数の各種測定方法と問題点について

- ・ 各々の測定方法の欠点利点を表などにまとめて示してはどうか。

f. 分配係数の標準的な測定条件に関する検討について

- ・ 内容が変更された部分について各担当者間で良く検討し、意見をまとめ、標準原案の形作りを進めること。

全体構成について

- ・ a～g章のつながりの整理をなるべく早く始めるため、各担当区分について個別に検討作業を進める。

(5) 専門部会への報告について

第3回原子燃料サイクル専門部会へ「標準本体、附属解説目次構成（案）について」（F2SC5-3）を用いて報告する旨、了承された。

(6) 今後の予定

今回の議論を元に、幹事を中心として、各章について絞り込みを行い、f章につなげる方向で編集整理する。

第6回分科会は、2月下旬を目途に、委員の都合を事務局にて確認の後、別途連絡することとした。（後日、標準委員会日程により3月15日に変更）

以上